

日本フェルト株式会社

事業内容：製紙用フェルトの製造及び販売を主軸に、環境にも考慮した集塵機等で使われるフィルター等も扱う。

創業：108年



代表取締役会長 芝原誠一さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

フェルトの専門メーカーとしての役割を果たし、一途にお客様のニーズに応え続けるということが絶えず念頭にあるのが一番だと思います。

例えば、江戸時代から続く老舗和菓子屋の「時代に伴い変わる材料や人の好みに合わせて微妙なアレンジを加え続けていくことで、初めて“変わらぬ味”と評価を頂ける。その匙加減が大事である」という話を聞いた時、正に当社にも当てはまると感じました。

当社はお客様と緊密にコミュニケーションを図り、製造条件や紙の品質ニーズ等の変化を常に的確にとらえ、いち早く対応することを心掛けてきました。

そうした評価の積み重ねと諸先輩方から受け継がれる「一反入魂」の精神でフェルト一筋に取り組んできたことで、100年続く今に繋がっているのだと思います。

■社長に就任された時、どのようなお気持ちでしたか。

サラリーマンのトップになるという喜びはもちろんでしたが、それよりも前にプレッシャーの方が大きかったです。

当時から既に紙の需要が減少傾向にあり、先輩OBを始め、周囲の皆さんからは「おめでとう」よりも「よく引き受けたね」という声の方が多かったです。

しかし、就任前から現状の打開策が絶えず念頭にあったこともあり、引き受けた後はそれらを実現していこ

うという闘志が生まれてきました。

そして会社を継ぎ、社長を務めていく中で「社長は孤独だな」と感じました。

計画が滞った際やコロナ禍では役員や社員の協力は心強く、大変ありがたく思っています。しかし、何をするにしても最終的に決断するのは社長一人だと痛感していました。

眠れない夜や愚痴をこぼしてしまう時もありましたが、妻から「こういう厳しいことや辛さというのはお金を出しても買えるものではないし、誰もが経験できることではない。今、そういう世界にいるのだから、むしろ楽しんで臨んだら」と背中を押され、随分と気持ち楽になったのを覚えています。

それからは、何を決断しても、それが正解で、誰もが賛成するなんてことはあり得ない。批判は覚悟の上というのを肝に銘じて決断しようという意識になりました。

■次世代の経営者に対して伝えたいメッセージをお聞かせください。

先ほどもお話した通り、経営者というのは決断するということがやはり一番重要な仕事です。そのため、「批判は覚悟の上で『決断』すること」を肝に銘じてください。

また、お客様や社員、取引先の皆様など、相手はどう思うか、複眼的な視線で判断するということはどの分野でも当てはまる考えだと思います。



当社の製造工場の様子